

小学校

あいさつ

「気持ちのよい挨拶が聞かれるようになったという声を地域からいただくようになった。

少し離れたところからでも挨拶をする児童が多い、積極的に人と関わろうとする姿勢が芽生えている。

中学校区で挨拶運動をすることで、意識の向上が見られた。中学生が小学校に出向き児童や教職員と一緒に呼びかけることで、運動が活性化した。

地域の方々に学習や活動に協力していただく機会を多く設けることで、日ごろの感謝の気持ちを登下校時の挨拶で表せるようになってきている。



海士町

のぼりを持って、挨拶運動

小中一貫教育のひとつとして「自分から進んで挨拶ができる子」の育成をめざし重点週間を設けた。また、アンケートによる実態把握を行い進んで挨拶できるよう励ますことで、気持ちのよい挨拶を自分からする児童が増えてきた。

児童会活動に「ふるまい委員会」を加え、「挨拶プロジェクト」などを企画し、意欲を持って取り組んでいる。

明るく元気の良い挨拶は、県内の小学校で増えてきているようです。それにより気持ちのよい一日のスタートが切られているという報告もあります。

意識した点として、「職員率先」「校種間の連携」「地域・保護者との連携」「児童会の取組」などの言葉が多くありました。



津和野町

委員会による挨拶運動

学年に応じた長期宿泊研修をすることで、ルールを守ることや人を思いやること、我慢することの大切さを体験し感じさせることができた。

下駄箱の靴を意識して整えることにより、自分たちの生活する場を整えようとする心が育ってきている。

名札をつける、靴揃え、掃除など、一つのことを徹底することで、他のルールも守ろう、環境を整えようという意識が高まった。

ふるまい20カ条の中から日々のめあてを選ぶことで、その日の学習や行事に応じて児童自身がふるまいを意識して行動するようになった。取組が進むにつれて、児童のふるまいに対する自己評価が厳しくなっている。

手引きや、学年に応じた宿題などで、家庭学習の習慣が定着した。

1学期は指導資料「みんなきらきらふるまいめいじん」を利用したことで、2学期からも「昨日何時に寝た？」など、子どもたちが自分たちの生活に関心を持つようになった。

履き物をそろえる取組は多くありましたが、それができるようになることで、生活全体に落ち着きが出てきたというような回答も多くありました。まずは一つのことを全員の共通理解のもと取り組むことで、大きな成果も得られるようです。

履き物をそろえることで生活の落ち着きを、メディアを減らすことでコミュニケーションを、というように取り組むことの目的や成果を明らかにし、意識することも大切なことのようにです。

生活習慣の取組にはやはり、校種間や地域での連携という言葉が多くありました。

生活習慣など

異学年や異校種での交流により相手の意見や行動を意識し、思いやる言動ができるようになりつつある。

お互いに気持ち良く生活するためには、相手を意識して、声をかけ合うことが大切であるということが浸透してきた。

コミュニケーションの学習をすることで相手の行動や気持ちを意識した言動ができるようになってきつつある。



大田市
地域の高齢者との交流



安来市
小学生
読み聞かせに聞き入る

豊かな心

学習支援ボランティアさん(図書・習字・家庭科・音楽・クラブなど)とのかわりが多くなり、場に応じた言葉遣いや感謝の気持ちが育っている。

人との交流によって子どもたちの豊かな心は育まれているようです。学習活動の中で話し合い活動を充実する、日常生活の中で「ほかほか・ちくちく」といった言葉に注目して取り組む、ということも多くありました。

保護者や地域

小中 PTA 合同でテレビやゲームとどう接するか、保護者から呼びかけがされた。

情報を発信することで、「ふるまい」は当たり前前のことであり家庭や地域でもしっかり教えたりしなければいけないという声が、会でよく聞かれるようになった。

学校に協力してくださる地域の方への感謝の気持ちが見られるようになった。

よその子どもへの指導や注意への抵抗が以前よりも少なくなっている。

教職員が地域の方々の名前がわかるようになってくると、地域の方々に教職員のことでも理解していただけて、日常の会話も増えてきた。

地域とともに取組を考え、地域の広報紙にふるまいの情報を定期的に載せている。

親学プログラムの研修で、親の役割や子どもとの関わりについてしっかり考え、改善しようとする家庭が増えた。

親子読書の取組で、過度のメディア接触を回避し、少しずつ家庭読書の時間が増えてきた。

学校での取組や子どもの様子をこまめに情報発信することはやはり大切なようです。また研修や講演などを通して、意識を持っていただく、一緒に取り組んでいただくという方法もあるようです。

異校種や公民館等と連携した取組や子どもといっしょになった取組で、関心を持つ保護者も増えるようです。